

# 景

2014 THE BEST OF  
KAGOSHIMA LANDSCAPE  
& ARCHITECTURE AWARD

# 観



# ま

2014 第3回 鹿児島市  
景観まちづくり賞

# ち



# づ

# く

# り

## ごあいさつ



鹿児島市長

森 博幸

鹿児島市は、市街地の眼前にそびえる活火山・桜島や波静かな錦江湾という、世界的にも稀有な素晴らしい自然景観や、城下町として発展してきた個性あふれる歴史と文化を有し、多様な都市機能が集積する南九州の中核都市として発展してきました。これらの豊かな自然や鹿児島の風土・文化に育まれてきた美しい景観は、都市の魅力向上や交流人口の拡大に資するものであり、地域社会共有の財産として、次の世代にもしっかりと引き継いでいけるよう、市民、事業者、行政が一体となって、守り、創り、育てていく必要があります。

この「鹿児島市景観まちづくり賞」は、良好な景観形成に寄与している建築物や、市民、事業者、地域団体等の活動を表彰し、これらを広く紹介することで、都市景観に対する市民の関心と理解を深め、魅力あるまちづくりを進めるために実施するものです。

第3回となる今回は、建築部門に24件、景観部門に4件のご応募をいただき、3日間にわたる審査を経て、建築部門3件、景観部門3件、特別賞1件の表彰を決定いたしました。受賞された皆様方には、心からお祝い申し上げます。皆様方の景観まちづくりにかける情熱とご努力に心から敬意を表しますとともに、それらの取組の一つひとつが、多くの方々から愛され、地域の新しい魅力として定着していくことを期待しております。

さて、今年は景観法施行から10年という、景観行政における節目の年にあたります。本市はこれまで、同法に基づく景観行政団体として、地域性豊かな、鹿児島らしい風格のある景観を実現するための施策に取り組んでまいりました。

具体的には、桜島と城山への眺望を確保するための建築物などの高さや色彩の制限について基準を設けたほか、地域の象徴的な存在として景観を特徴づけている建造物や樹木を「景観重要建造物」、「景観重要樹木」に指定する取組、さらには、ほかでは見られない本市特有の景観や歴史的価値のある建造物などを含む数少ない景観を有する地区を「景観形成重点地区」に指定する取組など、本市ならではの貴重な景観の掘り起こしと保全・活用を着実に進めてきたところでございます。

今後とも、将来にわたり市民の皆様が愛着と誇りを持てるふるさとかごしまの景観づくりに積極的に取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、審査会の委員の皆様をはじめ、本賞の運営にご支援、ご協力を賜りました方々、そして今回ご応募いただきました皆様方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

## 審査にあたって



第3回鹿児島市景観まちづくり賞審査会 委員長

門内 輝行 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授

平成22年に創設された「鹿児島市景観まちづくり賞」は、今回で第3回となります。この賞の前身は平成2年から10回、約20年にわたって実施された「鹿児島市建築文化賞」ですから、実質的には景観まちづくり賞は24年の歴史を積み重ねたことになります。今回も第1回、第2回に引き続き、審査委員長を務めさせていただくことになり、大変光栄なことと存じております。

「景観まちづくり賞」創設の契機ともなった「景観法」が制定されたのは平成16年ですが、それから10年の歳月が経過した平成26年は、景観法制定10周年記念の催しに招かれることも多く、景観とは何かを問うことの多い1年でした。21世紀を迎えて景観法が成立した背景には、大量生産・大量消費を基調とした20世紀の工業社会において、自然と調和しコミュニティによって育まれてきた美しい景観が次々に失われてきたことに多くの人が気づくようになったことがあると思います。地域の環境や文化を大切にしてきた鹿児島市では、景観法が成立する以前から「建築文化賞」を創設し、さらにそれを「景観まちづくり賞」に発展させてきたことは、誇るべき実績であると考えています。

第3回景観まちづくり賞の審査は、10月24～26日の3日間にわたって実施しました。幸い天候にも恵まれ、現地審査を含めて順調に審査が進み、表彰対象となる作品・活動を無事選定することができました。応募件数は前回とほぼ同じ程度でしたが、集まった作品・活動の質についてはまずまずの水準に達していたのではないかと感じています。

今回は建築部門9件、景観部門3件を現地審査の対象としました。建築部門については、都市的文脈をよく読み込んだ作品や複数の建築群によって景観を形成する作品が見られたこと、景観部門については、景観や景観まちづくり活動を評価する側の視点や価値観が問われる事例があったことなどが印象に残っています。なお、現地審査を行った建築部門の1件については景観部門として審査した方がよいと判断されましたが、応募用紙の書式が異なることもあり、慣例に倣って特別賞の対象としました。

イギリスの景観論者G. カレンは、「半ダースの建物が集まると、そこに建築をしのぐ芸術が芽生える」と述べて、「景観」の本質が個々の要素よりも、要素間の関係にあると指摘しています。単体としての建築を超えて、建築相互の関係、建築と都市の関係、建築・景観とコミュニティ・文化との関係、人工物と自然物の関係などに配慮した設計をすることが、21世紀における建築・景観設計の基本原則となるはずで、「鹿児島市景観まちづくり賞」の審査を通して、そのような関係性に基づく設計原理を先導し、鹿児島の建築・景観文化をいっそう豊かなものにしていきたいと考えています。





nui project棟 外観



01



02



03



04



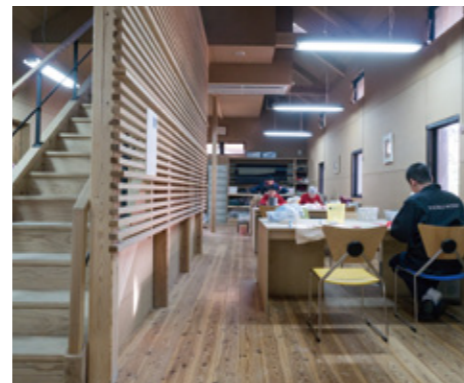
05



06

建築部門

社会福祉法人太陽会  
「しょうぶ学園」における一連の建築



nui project棟 内部

- 【所在地】 吉野町5066番地
- 【建築主】 社会福祉法人 太陽会
- 【設計者】 株式会社 小森昌章建築設計事務所

	[ nui project棟 ]	[ パスタ&カフェ Otafuku ]	[ オムニハウス ]	[ そば屋 凡太 ]
【施工者】	株式会社Misumi ホームライフ事業部 建設課	株式会社 ホーミング	株式会社 鶴留建設	株式会社Misumi ホームライフ事業部 建設課
【用途】	創作作業棟	レストラン	地域交流スペース	食堂
【構造等】	木造1階	木造2階	鉄筋コンクリート造2階	木造1階
【延べ面積】	223.04㎡	182.27㎡	472.49㎡	49.39㎡

知的障害者支援施設「しょうぶ学園」の中に建設された4棟の建築、すなわちレストラン(増改築、2008年)、地域交流スペース(リニューアル、2010年)、そば屋(リニューアル、2011年)、作業棟(新築、2011年)が連続した建築群である。既存の建築では、過去の面影を残しながらもそれまでとは違ったものに生まれ変わらせる増改築やリニューアルを行い、さらにそれらと調和する新たな建築を加えることによって、周辺の自然環境とも融合した“集落”や“街並み”を思わせる魅力的な景観を創出したものである。

「しょうぶ学園」はものづくりを積極的に進めていることで国内でも有名な施設で、今回の建築群にも入所者や施設スタッフの手作りによるものが積極的に利用されている。外壁に貼った陶板、外装や内装の壁塗り、家具、食器などがそれぞれ、4棟をつなぐ共通した雰囲気づくりに役立っている。外壁や屋根の形状や素材についても、緩やかにうねった土俗的な土壁や大胆な外壁のペインティングなどが大きく育ちつつある木々に囲まれて、時間の経過とともにその環境に適した味わいを感じさせてくれる。さらに、敷地内にはもともと障害者の芸術性を引き出す各種工房などがあったが、地域とつながる食空間やギャラリーなどの機能を合わせ持つ4棟の建物が加わったことで、日々地域コミュニティの方々や一般の来訪者と入所者との触れ合いがごく普通に行われるより開かれた障害者施設となっている。

「しょうぶ学園」における一連の建築は、個々の建築の単なる寄せ集めではなく、緑豊かな環境、見事に調和する新旧の建築群、そこに集う多様な人々の生き生きとした活動などの全体が一つの景観を形成するように設計されたものであり、景観まちづくり賞の建築部門にふさわしい作品と言える。

- 01 Otafuku 外観
- 02 Otafuku 内部
- 03 オムニハウス 外観
- 04 オムニハウス 内部
- 05 そば屋 凡太 外観
- 06 そば屋 凡太 内部

受賞者の声

「社会福祉法人太陽会『しょうぶ学園』における一連の建築」

4棟の連続した建物の設計の機会をいただき、またそれが「景観まちづくり賞」をいただきましたことを大変ありがたく思っております。一つの建物から線につながり面となって景観につながっていくことを今回の設計で実感することができました。

株式会社 小森昌章建築設計事務所  
代表取締役 小森 昌章





全景



01



02



03



04

建築部門

鹿児島の家



中庭



吹き抜けで2階とつながる1階ダイニング

- 【所在地】 平之町
- 【建築主】 個人
- 【設計者】 石井良平建築研究所
- 【施工者】 株式会社 新生組
- 【用途】 専用住宅
- 【構造等】 鉄筋コンクリート造2階
- 【延べ面積】 236.02㎡

城山の麓の崖地に近接する敷地に建つ2階建ての専用住宅である。土砂災害への備えと環境への配慮から、鉄筋コンクリート造とし外断熱工法を採用している。隣接する駐車場など、周辺は将来予測が難しいため、隣地側には開口部をとらず、道路側に前庭と裏庭を設け、そこに向けて大きな開口部をとり、閉じる場所と開く場所を明確に区別している。2つの庭の間に生活の中心となるダイニングを設け、風が通り抜ける道を巧みに確保している。ダイニング上部には吹抜でつながるワークスペースを設け、個室も木製建具を開くと吹抜を介して1階に気配が伝わり、家族がつながり合うように空間が組織されている。内部はコンクリートの打放しと対比させて無垢材を使用しているが、それは鹿児島の風土の表現であるとともに、施主が保有していた木材を活用した結果でもある。

前庭と裏庭、それらを結ぶダイニングという空間構成は、後方の城山の緑と前方の屋敷地の緑を視覚的に連続させた景観への配慮から導き出されたものである。鹿児島の強い日射しと桜島の降灰には深い開口部とオーバーハングさせた上階により対応し、外観に陰影を作っている。屋根には排水口や樋を設けず、緩勾配のスラブで雨水を処理し、外壁の2カ所に開放のたて樋を設けている。鹿児島の環境とつきあいがながら住まうかたちを素直に表現した優れたデザインと言える。

以上のように、設計者は、住み手の個性、家族の人間関係、風の流れ、周辺環境の緑、鹿児島の風土などの特定の状況に柔軟にตอบสนองのかたちで設計を進めており、住み心地が良く、質の高い生活を可能にする熟成した住宅作品が実現されている。

- 01 2階 ワークスペース
- 02 1階 客間
- 03 西側側面 開放型たて樋
- 04 夜景

受賞者の声

「鹿児島の家」

立地としてきびしい条件のなか、周辺のおぼろげな拠り所をもとに、鹿児島の環境を大きな手掛かりとして計画しました。この家に関わったみんなが賞をいただいたことを喜び次代のまちづくりにつながるように願っています。

石井良平建築研究所 石井良平





正面 ファサード



01



02



03



04

建築部門

# 学校法人 ラ・サール学園 学生寮



グラウンド側 全景

- 【所在地】 小松原二丁目10番1号
- 【建築主】 学校法人ラ・サール学園
- 【設計者】 鹿島建設株式会社 九州支店 一級建築士事務所
- 【施工者】 鹿島建設株式会社 九州支店

- 【用途】 寄宿舎
- 【構造等】 鉄筋コンクリート造4階
- 【延べ面積】 10,699.03㎡

全国有数の進学校として名高いラ・サール学園の学生寮である。生徒の多くは中学1年から高校2年までの5年間をこの場所で過ごす。遠く桜島を望む学園の敷地の一角に、敷地内に分散していた寮群を建て替えたものである。

設計のコンセプトは、“寮と校舎との距離”と“中学生と高校生の距離”という2つの距離の取り方であり、中庭を囲む中高一体の学生寮とすることでほどよい距離感を実現している。生徒の日常は寮と校舎の往復であるが、帰宅時の気分転換の場所となるよう中庭を配し、南国の日差しに映えるカラフルな色彩を用いて校舎と違う雰囲気を醸し出している。また、2階から4階の寮室については、成長段階が大きく異なる中学生と高校生が行き来できないように管理しているが、同時に共に過ごす場所でもあることから中庭・階段室などを介して相互に意識できるよう配慮している。

外観に取り付けられたビビッドな色彩のアルミパネルは、エアコン室外機を隠すために設置されたものである。赤や橙の色彩については賛否両論があったが、活気を生む効果をもたらしていることも事実である。旧寮の植栽を移植し、石庭や灯籠を再利用した中庭は、学園の記憶を継承している。階段室上部のトップライトや四隅の中庭に開けた空間は、自然光を取り込む上で大きな効果を上げており、パステルカラーの寮室扉や入口付近のステンドグラスなども、空間に潤いを与えている。

以上のように、設計者は外観だけでなく、中庭や内部空間にも細やかな配慮を施し、質の高い建築を創り出している。本学園寮はキャンパス内にあるため、眺める人の数は限られるが、利用者である生徒や教員にとっては忘れることができない景観となるであろう。

- 01 エントランス 中庭方面
- 02 中庭
- 03 エントランス 入口方面
- 04 東階段

## 受賞者の声

「学校法人 ラ・サール学園 学生寮」

この建物は、学園の建設委員会の方々と設計・施工にわたり共に創りあげられました。

「光と色にあふれ、みんなの思いが詰まった、とても良い建物」として学園の皆様から愛されている当寮が、今回の受賞により多くの方に知られ、豊かな人・豊かな空間・豊かな街づくりの端緒となるよう祈ります。

鹿島建設株式会社 九州支店  
一級建築士事務所





春花壇 遠景



01



02



03



04

景観部門

# 西紫原小学校フラワーロード



公園清掃

【所在地】 紫原四丁目  
【団体名】 鹿児島市立西紫原小学校

【取組内容】 「地域の環境緑化への貢献を目指した環境緑化教育」  
・教児一体となった環境緑化整備活動  
・通学路の公園、緑地帯等の清掃活動  
・地域住民等への花苗・種子の配布活動

西紫原小学校では、環境緑化の整備を教育の出発点ととらえ、子どもたちに緑化環境づくりと直接関わりをもたせながら豊かな情操の育成や、自然への働きかけによる科学性及び、友だちとの植物の世話を通しての自主性・社会性の育成・伸長に取り組んでいる。最近では、環境教育の重要性の高まりを踏まえ、緑化活動を通して身近な環境問題を実践的・体験的に学ぶ総合的な学習を推進するとともに、地域や幼稚園などへの花苗の配付活動なども進めている。

こうした活動の成果として、管理棟校舎前面には、季節感を味わえる花の品種や配置に配慮し、一人一鉢の花と学級園の立体的な組合せを工夫した“フラワーロード”と呼ばれるオープンガーデンが形成されている。学校園としての仕上がり水準は高く、年間1万本の花が咲く地域の「花のスポット」として、来校者、地域住民、子どもたちのふれ合い・交流の場にもなっている。また、幼稚園、児童クラブへの花苗の配付、街頭での花苗の配付などを通して、地域の緑化活動を推進しており、さらに、校区内の緑地帯、公園の除草・清掃活動なども行って、地域の住み良い環境・景観づくりに努めている。

校庭の環境緑化としては、環境学習も含めて大きな成果を上げており、鹿児島県学校環境緑化コンクール知事賞、全国学校関係緑化コンクール文部科学大臣賞等が授与されている。これに景観という視点を加えると、校内の美しい花や緑がまちから見えるようにする、野原・森・緑道などを整備し、全身で自然と触れあえるようにする、といった環境緑化の次の段階を展望することもできよう。環境緑化を通して未来の子どもたちの成長を目指す取組を高く評価するとともに、さらなる発展を期待したい。

- 01 緑化研修      02 花壇の整備
- 03 定植作業      04 台風対策

### 受賞者の声

「西紫原小学校フラワーロード」

景観まちづくり賞の受賞ありがとうございます。これからも、本校に通う子どもたちだけでなく、地域の皆様に愛される憩いの場として、季節毎の花々が咲きほころ「フラワーロード」づくりに力を注いでまいります。

鹿児島市立西紫原小学校





子どもガイド活動



01



02



03



04

景観部門

# 石橋記念公園及び周辺上町地域の景観形成



石橋記念公園

【所在地】 浜町  
【団体名】 石橋記念公園  
子どもガイドの会

【取組内容】 「石橋記念公園及び周辺地域の景観形成活動」  
・観光客等への園内ガイド  
・公園内や周辺地域の緑化、美化清掃活動  
・上町や鹿児島の観光や景観を考える「鹿児島ジュニアサミット」の開催

石橋記念公園は、江戸時代後期に甲突川にかけられた5つの石橋のうち、平成5年8月の大水害で流失を免れた西田橋（県指定文化財）と、高麗橋、玉江橋の3つを移設保存するとともに、石橋の歴史や架橋技術を学べる記念館を併設し、開園された都市公園である。この公園に「子どもガイド」を設置し、観光客等への園内ガイドの取組が始まったのは、平成20年度からである。

子どもたちが石橋の歴史や架橋技術を学び、体験する中で、鹿児島の歴史や故郷への興味を持ち、また共に考え、調べ、学ぶガイド活動には、現在では6～10名の子どもが携っており、来園者の好評を得てきている。子どもガイドの活動は、石橋のガイドから公園内及び周辺地域の美化清掃活動へと発展し、さらに「花かごしま2011」を契機として組織された「石橋記念公園花と緑の会」の構成メンバーとして園内園地整備に参加するとともに、鹿児島商業高校、鹿児島女子高校生約20名とも連携して公園の美化、景観形成活動を行っている。これらの活動に加え、「NPOかごしま探検の会」「上町タウンマネジメント」「上町維新まちづくりプロジェクト」の協力を得て、鹿児島の観光や景観を考える「鹿児島ジュニアサミット」を実施するなど、様々な景観まちづくり活動に取り組んでいる。

子どもガイドで興味深いのは、人工物が歴史的な文化財としての価値を持ち、自然物とともに景観になることを学んでいる点、及び子どもたちが自主的に参加し、高校生や大人と世代を超えて交流し活動している点である。参加する子どもの数が増え、環境や景観の深い意味を理解する活動へと拡充していくことができれば、この活動はいっそう有意義なものとなるに違いない。

- 01 歴史学習
- 02 鹿児島ジュニアサミット
- 03 定植作業
- 04 鹿児島中央駅 花の配布

## 受賞者の声

### 「石橋記念公園及び周辺上町地域の景観形成」

子どもガイドたちが、郷中教育の実践のように学校や学年の枠を越え、高校生ボランティア、町内会とも連携しながら自主的に取り組んできた活動について、表彰されたこと誠に有難うございます。

受賞を契機に更に大きく成長し、薩摩の文化「石橋」の魅力を伝え、地域の美化、景観づくりを進めてまいります。

石橋記念公園子どもガイドの会





ひらかわ美術館と庭園



01



02



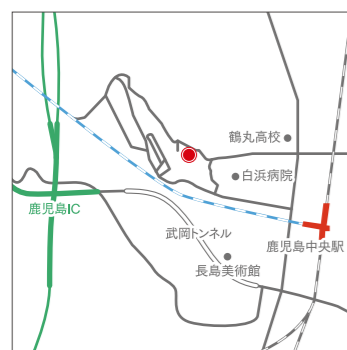
03



04

景観部門

ひらかわ美術館



美術館表門

【所在地】 常盤一丁目  
【代表者名】 平川あさみ

【取組内容】 「美しい常盤の森を借景とした庭造り」  
・古民家、庭園の再生と景観維持活動  
・見学者への庭園開放

美術館として使用されている児玉邸は、薩摩街道として参勤交代などで有名な常盤町の水上坂の中ほどに位置している。江戸時代、島津藩の家老を勤めた宮ヶ原家の屋敷を児玉利助氏が購入し、息子である利彦氏が優れた大工と共に昭和32年に新築した近代和風モダン建築であり、緑豊かな自然の中に静かに溶け込んでいる。この建物の主屋、表門、及び明治後期に作られた井戸屋は、平成26年春に国の登録有形文化財に選定されたところである。

ひらかわ美術館は、この児玉邸を借りて、平成21年春に開館し平成31年春までの予定で、作品の展示、使用を行っている美術館であり、花鳥風月にこだわる京都の日本画家、大野藤三郎氏の作品を展示している。この美術館は、建物所有者である児玉氏の理解と支援、及び美術館運営に携わる平川氏個人の熱意と多大なる尽力によって成立している。平成21年に庭園の大規模改修を行い、景観を維持するため、清掃、植栽といった作業を日々続けるとともに、お茶会などのイベントを実施し、地域の方々とも交流していることは、高く評価すべきである。

美しい庭園、有形文化財としての建物、花鳥風月を描いた絵画作品、周辺緑地などが織りなすひらかわ美術館は、個人の献身的な営みで奇跡的に成立したものであるが、景観まちづくり賞に相応しい価値を備えた景観を形成している。しかし、美術館の開館が完全予約制で日曜日のみとなっているのは、個人に依存した運営体制によることも事実で、その限界を超えて景観の公共性を担保するためには、組織や財政の基盤を整備する必要があると考える。ひらかわ美術館は、持続可能な景観まちづくり活動における行政や市民の役割についても一石を投じていると言える。

- 01 秋の庭園
- 02 美術館内部
- 03 造園風景
- 04 庭園の清掃活動

受賞者の声

「ひらかわ美術館」

美術館周辺の土地開発が進み、昔見られた湧水が消失致しました。美しい景観とは、そこに必ず自然が存在します。これからも自然と共に美しい世界を作っていきたいと思えます。

ひらかわ美術館 平川 あさみ





照国表参道アーケード



01



02



03



04

特別賞

# 照国表参道アーケード



【照国表参道ロゴ】

天文館の「天」の字が開かれて鳥居のマークになった新ロゴ。照国神社に向かって表参道から鳥居を眺めた一点透視、テルクニの「テル」の字と重ねた。また昔の天文館のように栄えて欲しいという願いを込めて末広りのデザインを提案。

【所在地】 東千石町

【表彰の対象: 建築主】 照国表参道商店街振興組合

【取組内容】 ・建設過程の熱意を持った取り組みと合意形成

・魅力的な都市景観の形成と街のイメージアップへの寄与

【設計者】 株式会社 東条設計

【施工者】 株式会社 日米アートム

鹿児島市のショッピング街・天文館地区は、近年の郊外型大型商業施設の進出や中央駅地区の再開発に押される形でその価値が揺らぎつつあり、空きテナント対策や買い物客の誘導策を進める必要に迫られている。しかしその一方で、照国通りには一部アーケード未設置のエリアがあり、天文館地区のアーケード設置エリアと大型地下駐車場との間の歩行者動線が特に降雨時や降灰時には分断された状況が続いてきたのである。照国表参道アーケードは、こうした都市的状況を背景として、照国表参道商店街振興組合が実施主体となり、国補助金(商店街まちづくり事業)、市助成金(共同施設設置事業)、及び自己資金を充当して、長年の夢を実現したものである。

出来上がったアーケードのデザインには、車道側に柱を設置しない、街路樹の成長を阻害しない屋根幅とする、白を基調としたシンプルな構成とする、といった工夫が凝らされ、その結果、開放的で統一感のある通りの景観が形成されている。鳥居を連想させる反りのある特徴的な形状は照国神社への見通しの良さを確保するのに役立ち、既存店舗の間口に合わせて設置された柱は店舗ファサードの視認性を高めるのに貢献しており、言わばテーラーメイドのアーケードが形作られている。

ただ、道路に埋設されたインフラとの関係から樋の配管などに若干無理が生じていたり、白い塗装が日光の照り返しで眩しく感じられたりすることもあり、細部の納まりや色彩の選択などにもう少し工夫があってもよかったのではないかとと思われる。もう一つ惜まれるのは、柱間の

01 夜景

02 鳥居を模した形状

03 照国神社方面

04 設置前

寸法調整以外に店舗の違いを表現する仕組みがあまり認められない点である。各店舗の個性をうまく表現する仕組みがデザインされていると、通りの景観はいっそう魅力的になったのではないかと考える。

とはいえ、地元の照国表参道商店街振興組合を中心とする関係主体の献身的な努力により、鹿児島市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた「照国表参道商店街ショッピングモール化事業」がこのような特徴的なアーケードデザインによって実現したことは、高く評価できる。これにより、中央公園を挟んで近接する歴史・文化ゾーンと天文館地区のアーケード群からなるショッピングモールがつながり、来街者の利便性や快適性、回遊性を高めることができたからである。

なお、照国表参道アーケードは建築部門に応募されたものであるが、審査会では現地審査を踏まえて慎重に審議した結果、建築作品としてのアーケードを評価するだけでなく、アーケードによって創出された都市景観を審査対象とし、建築部門と景観部門の審査区分を超える「特別賞」を授与することにした。アーケードは建築作品を超えて、中心市街地活性化の景観を創出する装置であり、そのデザインに関与した多くの関係主体の努力に敬意を表したい。



## その他の二次審査対象

二次審査(現地審査)を実施した作品・活動は、建築部門9件、景観部門3件です。審査会では、二次審査の対象を優れたものと評価しており、選外となった場合もパンフレットで紹介し、講評を掲載させて頂くことにしています。今回は、建築部門9件中、4件(1件は特別賞)が受賞しており、残りは5件ですが、1件は講評を辞退されたため、4件について講評を書かせて頂きます。景観部門は、二次審査を行った3件がすべて受賞していますので、本欄で講評すべき案件はありません。

### 【 建築部門 】

#### 日本ガス株式会社 かごしまキッチンほのほの

用途 / 事務所  
所在地 / 城南町  
建築主 / 日本ガス株式会社  
設計者 / ウチダアーキテクトオフィス  
施工者 / 株式会社下道組

「日本ガス株式会社 かごしまキッチンほのほの」は、築25年の既存建築物のリノベーション(増築を含む)である。既存建築物の屋外にせり出した天井の高いピロティ部分に低層の増築部分を挿入し、既存部分と連続する空間を構成し、事務所・料理学校として活用している。増築部分は既存部分に対して斜めに配置され、壁面も少し斜めに傾けた特徴的な空間となっており、白を基調とした外観とも相俟って、道路景観に新鮮なアクセントを与えている。ただし、細部の納まりや素材の選択、外構の構成などに粗さがあり、それが全体としての空間・景観の印象に影響を及ぼしている。

#### Whirl House

用途 / 一戸建ての住宅  
所在地 / 鼓川町  
建築主 / 個人  
設計者 / 株式会社小森昌章建築設計事務所  
施工者 / 株式会社木落建設

「Whirl House」は、狭小地に建つ木造2階建ての住宅である。間取りは、玄関から入ると時計回りに渦巻き状になっており、1階に水回りをまとめ、中2階にLDK、さらに上がると個室、寝室と上に行くほどプライベートな空間になっている。吹抜のあるリビングには大きな開口部があるが、中2階に位置しているため、外部からの視線は気にならない。周辺の閑静な住宅地に配慮し、外壁については白、黒、木質というニュートラルな配色としているが、広い面積を占める光沢のある白は、周辺への照り返しも含めて少しコントラストが強すぎたのではないかとと思われる。

#### 鹿児島信用金庫 鴨池支店

用途 / 店舗  
所在地 / 下荒田三丁目  
建築主 / 鹿児島信用金庫  
設計者 / ゲンプラン設計株式会社  
施工者 / 上塘・内門特定建設工事共同企業体

「鹿児島信用金庫 鴨池支店」は、緑化された電車道沿いに建てられた建築である。ルーバー、ピロティなどのモダニズムの建築言語で構成されたファサードは、端正な表情を創り出している。また、都市空間の圧迫感を軽減するピロティ空間には、バス停の待合者のためのベンチを設置している。ただし、2階のルーバーが開口部と対応しておらず、装飾になっていること、“縁の下の力持ち”を表現するために、独立柱を装飾的な末広りの形にしていることなど、少し無理のある表現が気になる。景観の視点からみると、前面の緑化した電車道に呼応した表現を考えても良かったと思う。

#### Sage (セージ)

用途 / 一戸建ての住宅  
所在地 / 城西二丁目  
建築主 / 個人  
設計者 / 株式会社みのだ設計  
施工者 / 株式会社須田建設工業

「Sage」は、商業施設や公共施設が並ぶ通りから1つ中に入った所に建つアトリエ付住宅であり、5つの道路が交差する角地にある。既存住宅の面影を外構や建物色彩に残すこととし、瓦、庭石、植栽を再利用し、外壁を瓦の鼠色としている。1階はアトリエ、2・3階は住居で、前者は開放的、後者は閉鎖的である。こうした新旧の対比・表情の対比によって、景観を構成している。外部に駐車場を兼ねた石庭を設け、敷地角の植栽や堀も開放空間としている。複雑な条件に対して、巧みに空間を構成しており、設計者の力量が感じられるが、全体に焦点が曖昧になった点が惜まれる。

講評執筆：第3回鹿児島市景観まちづくり賞審査会 委員長 門内 輝行

## 第3回 鹿児島市景観まちづくり賞

### 1 | 目的

景観まちづくり賞は、良好な景観形成に寄与している建築物や、市民等の活動により保全されている景観の良好な街並み、田園、海岸、緑地、景観形成に貢献する市民等の活動を表彰し、これらを広く紹介することにより、景観に対する市民や事業者の関心を高め、魅力的な景観のあるまちづくりを進めることを目的として実施します。

### 2 | 募集期間

平成26年6月18日(水)～8月1日(金)

### 3 | 募集対象

#### ① 建築部門

市内にあり、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与えている民間建築物で、平成16年4月1日から平成26年8月1日までに建築基準法による検査済証の交付を受けたもの

#### ② 景観部門

●市民・事業者によってつくられ保全されている街並み、田園、海岸、緑地などの市内の良好な景観

●市内で継続的に取り組まれている景観まちづくり活動

### 4 | 応募件数

建築部門：24件 景観部門：4件



### 5 | 審査会

#### ① 期間

平成26年10月24日(金)～26日(日)

#### ② 審査会委員

委員長	門内 輝行 京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授
副委員長	井上 佳朗 鹿児島大学法文学部名誉教授
委員	木方 十根 鹿児島大学大学院理工学研究科教授
	橋本 文雄 鹿児島大学農学部教授
	古川 恵子 鹿児島女子短期大学生生活科学科教授
	江良 喜代子 era色彩計画代表
	東川 美和 NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会事務局長

### 6 | 表彰

【 建築部門 】 建築主 賞状及び銘板  
設計者 賞状  
施工者 賞状

【 景観部門 】 活動団体等 賞状及び賞金10万円

【 特別賞 】 建築主 賞状



## 第1回 鹿児島市景観まちづくり賞 受賞作品 紹介

### 【 建築部門 】



#### 薬師堂の家

用途 | 専用住宅(車庫付) 設計者 | 株式会社小森昌章建築設計事務所  
所在地 | 東谷山三丁目 施工者 | 株式会社新生組  
建築主 | 個人 構造等 | 鉄筋コンクリート造2階



#### 東宝アルバビル

リッチモンドホテル鹿児島天文館

用途 | ホテル 設計者 | 竹中工務店九州一級建築士事務所  
所在地 | 千日町14番1号 施工者 | 竹中工務店九州支店  
建築主 | 萬活土地起業株式会社 構造等 | 鉄筋コンクリート造11階



#### STEP

用途 | 共同住宅 設計者 | サウルス建築設計事務所  
所在地 | 松原町 11番7号 施工者 | 株式会社前屋敷組  
建築主 | 田代隆宏 構造等 | 鉄筋コンクリート造7階

### 【 景観部門 】



#### 大原地区フラワーロード

所在地 | 本名町7934番地1先 団体名 | 大原地区公民館連絡協議会  
内容 | 県道沿いの花壇の整備、維持管理  
・幹線道路の緑化、路側帯の空き地150mの花壇等の苗植え、  
草取り、水遣り、清掃



#### 八重の棚田

所在地 | 郡山町八重 団体名 | 八重地区棚田保全委員会  
内容 | 棚田の保全と都市農村交流による地域活性化  
・八重山の山腹に広がる約240枚からなる石積みの棚田の維持保全  
・棚田を生かした農作業体験を通じ、都市部住民と地域住民の交流



#### マルヤガーデンズ

所在地 | 呉服町6番5号 団体名 | 株式会社丸屋本社  
内容 | 商業施設の再生、壁面緑化、屋上緑化  
・商業施設の改修工事におけるメインファサードの壁面緑化、屋上緑化  
・コミュニティスペース「ガーデン」の設置、運営

## 第2回 鹿児島市景観まちづくり賞 受賞作品 紹介

### 【 建築部門 】



#### 小規模特別養護老人ホーム寿康園 ・寿康園グループホーム飯山

用途 | 児童福祉施設等 設計者 | 株式会社みのり設計  
所在地 | 本名町2196番地1 施工者 | 第一建設株式会社  
建築主 | 社会福祉法人寿康会 構造等 | 木造2階



#### 城山アパートメント

用途 | 事務所付長屋 設計者 | サウルス建築設計事務所  
所在地 | 城山一丁目57番12号 施工者 | 株式会社深野木組  
建築主 | 有限会社田代商店 構造等 | 鉄筋コンクリート造3階



#### 宮崎銀行鹿児島営業部

用途 | 事務所 設計者 | 株式会社日建設計  
所在地 | 山之口町12番9号 施工者 | 坂下・植村特定建設工事共同企業体  
建築主 | 株式会社宮崎銀行 構造等 | 鉄筋コンクリート造5階

### 【 景観部門 】



#### 城山観光ホテル ガーデンテラス

所在地 | 新照院町 団体名 | 城山観光株式会社  
内容 | セミパブリックとしての庭園の開放  
・ガーデンテラスの一般開放等による「市街地と桜島」眺望景観の視点場提供、  
鹿児島市の魅力発信 ・日本庭園「水簾」の整備 ・イルミネーションによる演出



#### 桜島まるごと博物館

所在地 | 桜島全域 団体名 | NPO法人桜島ミュージアム  
内容 | 桜島エコミュージアムの実践  
・桜島の魅力を体感して楽しむイベントの開催(散策ツアー、バスツアー、各種体験など)  
・桜島の豊かな魅力の掘り起こしと情報発信

### 【 特別賞 】

#### 鹿児島中央駅前開発 による都市景観の創出

所在地 | 中央町  
内容 | 九州新幹線開業に向けた  
「南国センタービル」「鹿児島中央ターミナルビル」  
建設等の鹿児島中央駅前開発による新たな都市空間整備  
表彰 | 建築部門に応募のあった次の建築物の建築主(5者)を一連の  
プロジェクトの事業主体として表彰  
「南国センタービル」  
建築主 | 南国ビル株式会社  
設計者 | 株式会社三菱地所設計九州支店  
施工者 | 株式会社大林組九州支店  
「鹿児島中央ターミナルビル」  
建築主 | 南国中央ビル株式会社、南国殖産株式会社、株式会社鹿児島銀行、株式会社松元  
設計者 | 三菱地所設計東条設計共同企業体  
施工者 | 株式会社竹中工務店九州支店





## 景観まちづくりとは

### 景観とは…

- 景観は、それぞれの地域ごとの歴史、地勢や生態系などの風土、文化や伝統、私達一人ひとりの暮らしや経済活動等と、技術の進歩や法律制度等が背景となってつくられるものです。
- 良好な景観は、地域の個性や特色をわかりやすく特徴づけるものであり、人々の地域に対する愛着やふるさと意識を育みます。
- 身近にある景観のよさは、潤いある魅力的で豊かな生活環境の創出に貢献します。
- 美しく個性的な景観は、観光をはじめ国内や世界各地との交流を活発にする役割を担います。

### 景観まちづくりとは…

- 自分たちのまちの景観を楽しみ、貴重な財産として次世代に残せるように、わがまちの景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みが、景観まちづくりです。
- 景観まちづくりは、現在の良好な景観を大切に保全することだけでなく、新たに現代的で美しく魅力的な景観をつくりだすことも含まれます。
- 清掃や緑化など、日々の暮らしに根ざした、まちの景観を整えるための地道な活動も、良好な景観まちづくりに貢献しています。

歴史・風土 文化・伝統 人々・暮らし 技術・制度

これらが一体となって  
目に見えてくるものが

**景観**

景観まちづくりの結果も  
景観の新たな背景

まちの景観を維持・継承・改善する  
ための様々な活動が

**景観まちづくり**

まちの景観を  
維持・継承・改善する行為

## 鹿児島市の景観

